航海日記

天

特別
カ5
6012
1.

航海日記

一

カ05
06012
1

〈2015-18〉

航海日記　一

于時萬延元年申酉月十日亜墨利加米利賢國江
御使節御用其以前被仰付今日発足九段坂ヨリ
鎌倉川岸日本橋通リ築地操陣所江恙各々
揃而午時飯ヲ食シ乗其後大奥船ニ乗移リ
米國ヨリノ迎船ホウバタン江乗移リ直ニ碇ヲ
解キ横濱湊江恙シ碇ヲ下シ滞留ス
同十九日外国御奉行酒井隠岐守殿赤松
左衛門尉殿竹本圖書頭殿御目付神保伯耆守殿
船中江爲御送別ト御入来同廿二日横濱港出帆
夫ヨリ日々記之

飯田町九段坂
新見豊前守正興家臣
柳川兼三郎當清
二十六歳記之

申正月十八日　晴夕西風　未

一今巳上刻発足九時過より藤倉河岸日和橋要
築地揚場処に回り別船各和掛く午後と食し
夫より大深船に乗り出り品川沖二里ばかり
中にて米国よりの通船ボウハタンに到る此時米の別
ぶりの面我邦人乗ふ事早て彼米利堅の風法なん
祝砲二十一を発し西洋の作法を巻く揖を西東ふ
夫より八里半ばかりて中ノ中別揚屋尾に着し陸地より壱里
余を隔て渡を乗り渡し滞船する酒肴ふと和
山度前をもって先来ることに無之船中廣大なり
こうへとも日和人の位置いろいろ多様く我邦の廣
室なるもこれに下こ三畳敷にて四畳二間小棚廊下ゆ

是家如ものなりと雖も此船は拾人同居する大棚ハ
中央に人員室を設置して要塞の様を能く備へ
の時に臨み為めなり扨此船を西名フレカット（船ノ造形）マナキー（軍艦）
ラットスステーマと云是第四番目の名誉の軍艦と云
去る亜墨利加と英吉利の間へ日り世船を案
しとなりしと云是亦平日案撰を為ふして常に大砲
并四挺を備へ砲戦の時に八百人乗りて大砲も多
備へと云和中に潜子（官名）と云船（船将）四隻を遣り上陸ト
モの言ハロモトールカビテーンこの官名の官名なりと云
既に去る頃亦英国より四日仕出
ひ二隻を送り帰国の為に英国焼船中に乗りて彼の言
新聞紙の帰りなり中船トモ言い西洋の四家所の
四隻室ハ隻に平面を設して下に弾丸を
出す中英ふ海の見張船の額を
至て高く屋室ふ英を隻を
官
テナントノ隻室と造り如も中屋を
弾丸種と英吉利の船を
言ふ三人乗ふ水夫（水夫）ミヨシの言ハタロスの位如して
隻に乗り船ハ中船ふ蒸気の結て
船ハ中船ふ蒸気の結て
士
ロイ
大部屋のてくりて
結て海船ハ合乗ふ蒸酒
動如ふ乗ふれ品
月十九日晴
一日滝浦船年ノ中別外国出奉行酒井隠岐守様

海軍取扱中当書類提出用紙神保伯耆守殿ヘ毋中ハ送
別のたるふれの事ハ中の刻出帆陸
同月廿日　雨
一同港滞留日ニツルシヨル。ゲベル銃ニ筒を持ち銅鍋ニ年刻
を船中の紙別書ニ記ス
一船将部屋の角船の中時ハ烟草を喫ス
一船中ハ〆　夕後提灯を用ヒ〆
一船内ハ部屋の外夜ハ時限ハ提灯を消ス
一部屋ニ入ハ必ず申ス
一帯燒刀ハ無之時ハ不法者ハ
ハ帯ス
一酒ハ毋中ニ飲ス　酒の言ハ
まをさず　ハ申ス

一意禁用の品ハ水夫如ク指出シ船中ニ入元二番ニ
割ス
一合薬又ハ出発ハ日ニ人ハ部屋門ハ動
ウ
一毋中ニ用ヒの灯ハ燈明ニ用ヒ
一船人ハ船中ニ士官部屋ハ
一右ニ言ハ如ク一号船人ハ
船ハ船長ニ言ヒ用ヒ
一船中の出発ハ日ニ人ハ
通ス人ニ船ハ一号ニ
右ニ通ス船将中ハ

同廿八日　薩摩北風　戌

一 同港停泊船の中ニ於て マタロス（水夫）壱人病死ニ付 停船中ニ於て 大砲一発ツヽ 朝ニ定の下刻并ハ戌の刻ニ至り 右ハコモトール（官名）乗船ニ於てなされハ各国とも 禁ることと云

同廿九日　晴 少風 西南ニ有之

一 辰の上刻 旋を解 横浜を出帆 未刻ニ至り 同刻ニ浦賀を出帆し 巳の中刻ニ至り 相模の大嶋を右ニ見て 印方ニ至り 此時 此軍艦 其余より出帆 米国の船 横浜ニ入港 右ニ乗船ニ旋を合せ 近て渡る 船往 各 廣室ニ入て 雨ニ濡れ 米国の名残 悲しみを忘るゝ舟

の早朝より遥ニ富士山を離れ暫時ニして又房宝の 我船ハ夕 飯食ニ於て 船中ニ於て我国 那子沖より亜船の沖を過て云 横浜より房州 測量ニ亜の四千里と云也 亜国至我ニ我十七千四百余里

北緯　三十八度　四十分四十秒　寒暖中　四十九度
東経　百六十九度　五十分十秒

同三十日　西風猛烈 暴雨　子

一 今朝 山 ... 見 只 海 ... 有り

一 昨日午時より今日午時まで　百七十八里
小　三十四度　二十分四十六秒　寒暖中　四十八度
東　百四十三度　十分十秒

同卅一日　朝西風 ... 東風　丑

一 大洋にて多数音楽を奏し兵卒等酒を飲み楽をなす云日ヒリルニヨルスゲヘル箇と称す
洞海湾の別称マタロスヒールトニ称す 水夫 酒客
岩を人面に似せ多数色黄ふして康ふ〜〜
多の鶴と日蔵のごとし筑前にて酒を用ゆるを禁ずるを知りウテナニトハ報ずと云

一 正午過 二百里
小 三十五度十七分 平野
東 百四十八度十七分 平野 元禄年 西度

月廿五日 晴 西風猛烈なり 兵卒
一 船内音楽の習ひたるワルジョルノ洞海にあり多数音楽を奏し

ふるふ音曲を聴と八十三人なり 常の音楽と奏し
六十九人なり

正午過 二百四里
小 三十六度 五十四分 平野 元禄年 平野
東 百四十一度十五分 平野

月廿六日 晴 風和

一 今日浪静かにして船の動揺なし 我船人
過て横浜の及海面を航行し 我船人
形始て洋中に出 大洋中にて
日毎に海面を見 岩より岩に
正午 二百二十四里
小 三十五度 五十一分 二十四秒 寅度 平度

東西五十四度　四十四分

同月七日南風猛烈暴雨大風雨

一朝より陸る船の動揺甚しく風雨猛烈
しかも逆風和らぐとも動揺
ならず　毎年の甲板は大河の
ごとく雷雨ますます富のごとく
ふるいたるも和らぐ時なく　豊郷子
乃至の船は無のごとくして動揺
消えて時々ごとくなり　リウテナント水夫の多口入れて指揮
の多年耳元ふ宮ますて宮ますて船は無なる
豊郷　逆ら　我船の
うたく豊後国　よりて無人を助けらるべく
去るとも心動揺すも無人を助
リウテナント士官の指揮よりたちひ沈没のれて波の
ごとくうちて又大波のうちに来りて船の波の
動船の揺動を受ひとて船の側に逆風
余と揺して我船の舵の動揺ならず
波のごとく各所をとうしたるに
動ちひ乱波を去るとも我船は人のごとく
ちて見るを助けらるる者無
さ自動の我船の戸屋も船
こうして仕事ならずとも豊郷子
呉湖南を去らう

東百五十四度二十八分

月廿八日　雨　西風烈し

一　船出帆致すべき筈なれども風向悪敷ゆえ日和の善
悪人々ひそかあるべきより毎年船路を知り者数人
相乗せ遣わし候処別紙の通り善悪区別これ有り
食事のときもむし度の大風雨に四軍小事中事と呼
ぶの中船打ち碎き者の為船の数ひとしく破船する及
ぶべきの如き西風これ有りても名蓋の軍船を陽きしと云
者風にも小軍船にて橋舟と流れ出ずるかもしれざる如
く有りと云ふ別紙の通り沈風自然より北に行きて
運のあるべき如く藤ものひとしきをあるべし

二百五十四里

北　二百二度四十九分　定時二百六度
東百二十二度二十四分

月廿九日　雨少風年

一　船出帆致すべき筈なれども四年の測量にて般舟の西
平千四百二里

二百八里

小　二百九度五十八分　定時二百六度
東百二十二度四十九分

月晦日　雨雲東少風来

一　今日船中にて人別を改むるに船を乗つもる
人数百人と雖ども船中にて無所にて
皆船上にあるべき　ユモドール　ユモドールとも云ふ　士炎

行きて泊すと雖しかるにヨルハケベルと称する大なる湾を
持てるオタロスの方にて昼食業終果て持て来る船の
中にて烈しき風吹きりウテナントあり船
名を張り出す事つゝ再び乗込みて行きも退てぐく

百六十浬　百八十一里

小　三十五度三十分　三十分　三十五度

東　百七十度二十五分　三十五秒

二月　朔日　雨風烈し中

一　船印を定めたる事由冥想ワシントン誕生日なれば祝砲を
発し酒宴を催したる処大風吹き来ふ兵士全員
たのもしく風雨あり船室揺動コモドールカヒテーニ為人
より〻オタロスを出る時出帆する大風雨の為出帆延引

千トル半ばにして出帆し来りたる我方向

百六十浬　百二十五里

小　三十二度三十分　三十分　三十四度

東　百七十三度三十分　三十分

月二日　晴天風吹き雨

一　船は宮印の間にて

百六十浬　二百二十里

北　三十七度五十分

東　百七十七度三十分

月三日　晴天風吹き

一　雨風烈しく出帆ワシントン誕生日なれば十二時
小祝砲を発せしに延引し今日祝砲

九ツ時

リウテナントとかの者も序室にいたして概概同じ新発手等
の肉を食して大ひに酔て一つタロスをふいてうたをうたふ
酒肉をとりつくしたるとき
二百三十四里　二百三十四里
北　三十度五十分　三十二秒
東　百四十度四十四秒　経度五十度
月曰　晴ル風　炎
一船無事にすゝむ
正午迄　二百四里
北　三十八度一分　三十六秒
西経百七十三度三十六分　三十秒　経度五十六度
月曰　晴ル風子

一毎日の日記
二百四里
北　三十八度四分　三十秒　経度五十二度
西　百三十九度三十分　三十秒
月十一日　晴東ノ風
一今日ハ大ひに酔ての別れを惜きを歌とうたて毎年の為人数を集め甲板ノ上にカビテーン中英ノ人ハ第四と中国人ハ第五ひとり行きも冠をとりて是を能ものとうたふ歌とうたひ終れ
マタロスたビールとを用ゆ十日ノ十二度又風強く
是ハ百三十度人別の者ハ十日より二百四十度行きも大ひ能
よつて是より南に進む

百五十里　百八十里
北　二十八度二十分　寒暖　六十六度
西　百二十六度四十八分
月七日　晴　東小風　癸
一　七ツ半の刻より南方サントサンスコ港ヘ逆風
あ陸きカルホルニヤ地名　鳴ノ名
百五十里　二百四十里
小　二十六度二十分　寒暖　六十九度
西　百二十度十七分
月九日　西東風　辰
一　毎日の通り西ひくく波立ち船の動揺甚敷
逆風なれども船の上にて雨降日にて我国ノトキシロウと云雷ノ様ホウリトと云雷ノ様
あるなり
百五十里
北　二十二度十分　寒暖　六十六度
西　百二十度二十七分
月十日　陰　巽の風　巳
一　毎日通り
午時より　百二十里
小　二十度二十分
西　百二十九度四十分
月十一日　雨　東風　午
一　昨日の通りなれども
正午より　百十里

小　二十八度三十四分五十三秒
西　百四十度十二分四十五秒　　辰ノ偏七十度
同十六日　雨　南東風烈来
一　右ノ烈風ニテ帆ゲタ折候ニ付テ直シ修リ候ハ半夜
のことし
午の時まて　百五十八里
北　二十六度十五分五十八秒
西　百五十九度三十七分五十秒　　辰ノ偏七十二度
同十七日　晴　南東風申
一　船角甲方之差
西午也　　百七十二里
小　二十六度二十分三十三秒　　寅ノ偏七十六度

西　百六十九度五十分四十五秒
同十八日　晴　西東風雨
一　昨夜中より晴天ニ候處宵の刻より右ニ當り遠く廿二上井
又滲とミえ候所是ニ而帆以東北余日ニして山をミん事故を
よろこひの程申上之とも各船の皆高船ニ而ミえ候と
見る舟のまたもる所の退て近所さ一二の船をミ
夜の刻限まで船中に振旋をいたしてまた其夜中
出し遣不小舟三艘来りて湊に入る事内を尋我等人
を出帆以東北余日ニ而極月代ニ而宮中ニ而申候而
各共明より極月代を前しまて境内を除くまて
船をいたし以午の刻まてまいり十六の十八日湯木ノ八ヽ
湊ニ而乗船ニ付湊を甲方ニ向ひをミん事ニ而しの測を

こゝ太洋の浪を除る砂磯にて全く船をよせて着岸するなり
の人家ともみなほとりより山をとりまき山上には雲
霧を起して更にみなれぬ是は熱国なれば常に雲霧を
おこしてさんのことし　といふ晴るまでしばしして
一日こゝ中に居て事なし此サニトヰスノ港を出て中に
行つゝ北緯十五度西経百五十余度分まての
緯二十二度西経百五十八度まて正に布哇して豪斯
多羅利別ここの独立国あり合していて港と云此
キハボ港は王城之地之南港内に従ひて　凡毛其
布哇王の亜国ニニストルより西の事行しは南方
と申す是バナゝアトト云我芭蕉の実なり此柚よ葉
風にゆれて至る実なり此芭蕉の葉と云ふ本の別上陸して

ひとゝ都毎日に知らなく紅の絶えと来て南海岸にあつより
凡そ十二の歩人のむつかしひとして牧牛輪の馬車来る
まてあちこち馬車にて乗りて回り居しに拾壱車
と云ふは四輪にして皆大きさ乗て走る馬の眼まで紙を
張りてあり四余輪の四角なるあつて走るに付る是を
見るとに安当にもいかん拾弐余する
旅館に泊れば此達中海岸より旅亭あまた是れ居人よ
ひの難注あり此の旅館たる多分ホテルとて三十余なあを
日本人の経ぬることもなく表に酒店あり室二階にて皆此の事付
これより船を返して経済させより此処こゝより此葉
手をとりて見るは南風に芭蕉の実なるならむ亭に純
名をチエニこレルト云ふ事数四十年にかかり西班牙は純く

本邦にて聞く處なれハ其の西のチりベイのごとく
小猿に寿あつさ暑ハ十字におふして去る時のごとくなれ
の極に詣てハ其のちかく赤道を去るにハ熱国なれハ草木
もさかへ居なりと云庭園にも花絶ずあらて草木ハ
草花何れも満開し我国の草花の如ハ雑報千日
卅日草木の数ハ菊地ハ暖国なれハ二月中旬頃より
あたゝかにして何れも絵草木あると見え聞きるもこの國に
ハ花葉の数ハ更なくさへちさき牛馬等から居ることし
芋の数何りも是迄草木等につ数萬何りとも云ふ桜梅松
杉竹等とも見え当国の人ハ色黒うにして眼ハ
ときりき小さく其腕の長ハ何れも長くして歩行ハ
実に画かれる鬼人のごとし 色黒の其の人ハ皆と聞

夜ハ男ハ筒袖衣を着て其の腰ハ黒角の帯を巻
きて其其の如きの色何れも西洋布唐木綿の
類なり凡の如き白き布にて色々なり肩の辺より裾
の丈ハにて文黒角の黒布風呂敷給の如きもの斗に巻
なり髪ハ長さ二寸斗の中月のごとくまれ櫛を頭の後に
さし髪の毛を巻て其の根ハ男ハ女とも
親を除く髪のごとくに結ひ黒髪ハ其さき 赤き木の実
を繋ぎつらね首に巻き首に飾り天家なり生来
甚よく西洋なりと云男女とも其上にて往来を
歩行その形ハ誰人ハ洗ふ髪を結ひ家子のごとくまて
らくに見て往来にも婦人の大さまなし流し諸人
余ハ其もの頭に見ても小便するなど入湯も人前にて

弐拾弐日一度此島ニ而一ドル之銀貨の六分一にて可なる
其外ハ壱ドルニ壱拝ハ金銀を壱ドルニ小ハ銀貨ハ一ドルニ
壱分分ヲ玉子一ドルニ拾四ヲ云除ヲ為得ニ而候を
略ニ此地ハいつニ石ハ小ニして金之回地ニ而至
周ニ而島ハ嶋ニ而止ても此島ニ而の海二里程
山すハ文ニ大木をふん海ニ而ハ椰子の大木多く
多候ニ而銘を食して売其ハ抜金して雅限多り
此所四年より木ノルニ港ニ而　百五十里六等

小　二十一度十四分　　　正午　十七度

西　百五十七度五十二分

同十五日　晴雨　雲　戌

一　同港碇泊留ニ而此国王より二三日の銘を以奉行ニ送る

如ク食ニ人食ニ此事ハ当国ハ百年前ニ人の肉を
喰ひし所ニ去る三十年以来ニ英亜の方国より許之渡来して
学校等を建て諸人ニ学ハ文ノ道路等を教ゆるニ其
百年前ニ英人此国ニ来リし始而来る時此カヒテーニ此地
ニて生捕のうへ喰ましと云よりつ於るマタロスも本国
ニ帰り女王ニ右之事を述る女王并ひ軍艦をさし向け
此地ニ至りの上婦人ハ人を生捕り英国ニ至りの上万を
留女の道を教えし三年ニして再ひ連れ来り此地ニ
送り返しハ夫ハ人の女上陸して後国王等を以毎年
ニ礼ニ来ルよりして人肉を食ましきと止むと云当
時ハ王ニ而より渡り来りて往来し日を追て大ひニ
繁栄之都の港となれるなしとも未た英亜の家あり多列

[illegible]

コトミ味線ニ似タル音ヲ発ス

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一

十二日　晴　日和良し

[illegible]国より羅紗と[illegible]国の[illegible]
官名
[illegible]千ナシトモ[illegible]人集[illegible]
[illegible]船[illegible]
[illegible]人集[illegible]養育[illegible]
[illegible]
[illegible]

外山橋政[illegible]
[illegible]
日[illegible]山[illegible]の[illegible]人[illegible]市制の屋上[illegible]
[illegible]
[illegible]市制[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑん居りしに家内より猶子陸奥といへる年齢
二十二三計りの婦人出てありて各々に向ひ
一礼をなしてたちまち茶菓なとを出しつゝ
てまた茶なとも出してあいさつし種々の物語り
なと致しけるに其是に至りて出ける[illegible]
菓子の品なと[illegible]によりて各々内にて[illegible]と
出ける時の婦人かの是を出して[illegible]
手のひとしく年を[illegible]又[illegible]の[illegible]
[illegible]遅速の論なりけるに能是を考へ尽る
事子細に[illegible]ても[illegible]人の[illegible]遅速の様子
ありし[illegible]花を[illegible]しれと述へて其
[illegible]を[illegible]してに[illegible]

此処に至りて行に道の側に在る[illegible]
其婦人[illegible]人の[illegible]て[illegible]を添へて居る
又水中に其の国の人[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]細[illegible]に[illegible]又に[illegible]を[illegible]年[illegible]に[illegible]
人の[illegible]を[illegible]にて[illegible]年の[illegible]人
二階の窓より我等人を招く[illegible]各[illegible]を
[illegible]に[illegible]又[illegible]の[illegible]
[illegible]年[illegible]の[illegible]にて[illegible]
[illegible]内[illegible]に[illegible]を[illegible]
[illegible]の[illegible]の側[illegible]顔[illegible]を[illegible]
[illegible]各[illegible]に[illegible]に[illegible]
[illegible]時[illegible]に体[illegible]を[illegible]

種々ノ品ヲ給ヘ

筆ニ述カタシ

宣告

[illegible]

[illegible]

り法華経を [illegible] 稽の [illegible]
事用[illegible]
[illegible] 山の風景面の白砂[illegible]
[illegible] 郷中遍[illegible]
[illegible] 数[illegible]
[illegible] 書[illegible]
[illegible] 家の至[illegible]
の画[illegible]
[illegible] 三[illegible]
[illegible]
十[illegible]

[illegible]

十八日　[illegible]

一　日前序曰年の刻王城に[illegible]国あり八タこより
[illegible]の郭人の[illegible]国として郭[illegible]人のソルジョルゲベル[illegible]
を[illegible]と[illegible]と[illegible]と[illegible]と[illegible]
中黄金のリウテナント官名八人[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]山の[illegible]城郭[illegible]の山[illegible]の[illegible]絶
[illegible]
ソルジョル四十人ゲベルを[illegible]
二十人[illegible]
[illegible]
黄金王の書も婦人二十人[illegible]
の名とアレキサンドルリあり[illegible]
城郭[illegible]
婦人の[illegible]
[illegible]
遠中に城より[illegible]
[illegible]

程に見きは日本人としれたる船海に妙なる事あり
と似たる便船にてタニスと云ふは此方の戯とす来の
なりと云ふ味線の音と合せ打ち鳴し此と申すを
ミヨウミツキと云ふ曲女手をたれて躍るなり或は男二人高
女ニ人の手をとりて打ち囃子をとつて云ふの拍子時
国の者も見物せしにおかしく見へて人是に添へ手
拍子をとるなり

同十九日　少陰

上陸中見に国より急ぎを送る路鍋など外の道
移るに至る所をくる島路をも歩行きして
是を難儀なり見てくるれて其の所は是非なし鍋へ
牛なとの外に見え来る刻すは程前言ぞおなし

同中刻ホウハタと云ふ所に着きしをホウハタとは大きなる大
風また無中にて船より大の造船中にて来たる大湊を見
帆をかけ高風懸自ハ大凡百石積の船に其日本の総舟なれて
海底の砂をかき取るなり又ちかく船と云ふをも泊まりて居る
大人ハ夜なる所に渡りし小舟に乗る長さ二間半巾
三尺余の家なり上陸中夜水を食し暖国と云ふとも
当時より南に四千里余を隔てウバハイと云ふ此処に高
山ありて四季とも氷雪あり又アルメニアの山と
山にて年中煙を出し見ゆ土地の内の高山
なりと云ふ地の底の夜も毎に燃え居るなり又其の所にて
沢く燃えし炎のあかりをつくり見るにも晴れたる日本
年中の事にはなしてや仰のなし

一日港帰船　十九日　半晴卯
　　辛酉　七十四度
当港人家遠見七八百軒西国里数中
六十里と云

一日港帰船　十八日　曇晴　七十六度
年の割五ヶ月より陸無国ニテストル毛氏の如き東の列
島船

一日所廻船　十七日　半晴　己
　　辛酉　七十六度
ヒヲ沖合ふ三百艘の船と見る　何れも難破船と云

一日港帰船　十五日　半晴午
　　辛酉

一日港出船　十四日　曇
　　辛酉　七十六度半

一日港帰船　十五日　晴雨申
　　辛酉　七十六度

一日港帰船　十六日　半晴酉
　　辛酉　七十四度

一日処帰船　十七日　晴
　　辛酉　七十七度

一ヒヲ国ヨリ書ヒヲ乗ふ船中に来る毋の書面一和ヒヲ
行き来ス年ヒ船絶と答ヒヲ産物の事内
一酒菓子を出して無意ヒヲ国王の七度として
毋中の水夫毋中に七十ドルを与ふ云　一ドル銀
の二分ヒヲ毋ヒヲ毋ヒヲ当地婦人小物学と作ル冒女

手ことことて當分なし

同十七日 半晴東風 戌

一 同湊来の胡旋として辰巳之方へ出帆す

同十八日 晴 東北風 寅

一 針路を西南之方にとりて今朝より カニドヰス

湊をさして走りけるに始りては海面すこしく荒れの節

揺出来ぬ程にして此辺とも其の國出帆の時より

甚しく是とて同船中皆是を苦しむ為持薬

等服用すれとも皆しむ

昨出帆より正午まで 一百里

北 二十一度 五十八分 四十五秒

西 百五十六度 三十分 三十一秒

寒暖 七十四度半

同十九日 晴 東北風 子

正午迄 百二十八里

北 二十二度 五十九分 十七秒

西 百五十四度 三十二分 五十五秒

寒暖 七十二度

三月朔日 晴 東北風 丑

正午まで 百四十六里

北 二十四度 四十六分 四十三秒

西 百五十三度 四十二分 十五秒

寒暖 七十一度

同二日 晴 北東風 寅

午の時まで 百二十三里

北 二十五度 三十七分 十四秒

西 百五十度 二十四分 四十五秒

寒暖 六十九度半

一 今日 船中ハ西の方ニ出ル 晴 寒暖百四度 西風 印

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正午迄 二百十里

小 二十八度 十四分十秒

西 百四十度 十分二十秒 寒暖 二十六度

一 日出 晴 寒暖百四度 西風 印

正午迄 二百八里

小 二十度 四十分二十秒 寒暖 二十九度

西 百四十度 六分

一 日入 晴 寒暖百四度 西風 印

正午迄 二百十一里

小 二十度 十分二十秒

北 二十六度 十六分 寒暖 二十六度

西 百四十度 六分 寒暖 二十六度

一 日出 晴 西風 未

正午迄 二百十三里

北 二千四百度二合

西 百三十度六分

月八日 晴 北風 雨中

一今暁亜の別船帆を揚て遠ざかる中編の事記
さんとする事一冊につづる事一九十余の乃ち
我国の事記載せざるの為に
船上にて見る所の事を云亜ノウルトリフトと云ものの出
を以て服従せしめ終に彼の時分中の中編書
のこと記すべきの中の別船にて乗りの言に
行くて遠ざかる山とも見る是別に角の小作中
にて亜の別船に行くて遠ざかる

書紙をとる

午時まで 二百四十里

北 三十二度 五十五分

西 百三十四度二十三分 亜墨利加

月九日 雨晴 雨

一今暁亜の中別船中の大砲を一発にて号砲
他の船に行通を軍船を為して発
せしめの別に地名ヒルホルニヤ港名サンフランシスコ港の海に
を遠ざかるて船上にて拝礼をあるる中別船にて
小舟を船事にて乗る中の事内をいたす
この事内科 六十ドルと云度の別所港口にて海
幅四里ばかり海の深さ拾尋ばかり

上ハ高サ遠ク稽ヲ過ル程ニ甲ヲ
ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヨリ十丁余ヲ[illegible]
ハ[illegible]ヲ[illegible]ヲ高サ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
言ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ四言ヲ言ヲ[illegible]
炮ハ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
内ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
港ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]

亜国の中の指立の地名

ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
古ハメキシコ領ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
領中ノ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
ノ中ヲ今ハ山ハ西洋一ノ八百ロ年ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
余人ヲ[illegible]ヲ平八百五十年ヲ[illegible]
屋ヲ清国ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
ヲ[illegible]ヲ五人ヲ[illegible]ヲ[illegible]
ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
人口十万ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
純ロ七ケ月ヲ二百ヲ[illegible]ギュルデンヘシ今時ハ[illegible]

訪ふてギユルテこと納むとこと能はず一ギユルデこい親う
沢山路の国ふ行つて市中に至る途中二百五十
里山路の険あり此処にて暫く休憩と解
きてメールスアヤラこの子ビヤールトに行き此処無国の
里程にて三十里あり河の幅二十五間
にて高岸の山に至る川にて渡船
に乗り遠山の雪
無数に消えて山の中に大路あり
品書此所蘭と称ずる人多い稀ふて宋
静なる事一言に尽し難し
設宴を奏し此処無国の船場にて日の
もの終と上陸あり設宴を奏し軍艦

鴻の名
造他和

威保丸に乗り移り設宴を奏し終の如く過ぎ
去る船風に乗じて出船ふ遠州中ふ
此処に帰り
いへとも
とセプレメントと云河に
のこと此処人家あり
こ宅七八軒あるビヤールトと云船場
不毛の荒野人家凡三百軒
他いずこと共に仏国に行きも
あり此国の帆船軍艦威保丸の
此所にて雪国に
あり二月

とゝゆのてゆきてもちひゆあゝ船もり　こゝゆのちひゝ子どや
ールとゝ事ゝゝ我船人ゆ再會〳〵名ゝちひゆのゆろ
ゝ船ゆ別ゆいゝゝゆカビテーこゝより雜談ゝゝ遊ゝ居
ひゆゆゆゆのゝ猫〳〵ゝゝ云

此日年ゝりサンフランシコ港ゝて西ゆ中軍
小　二千七百　四千七百
西　百二千二百二千二百　　ゝゝ陸　二千百
月十日　百晴　戌

一ゝゝ年の別子ビヤールトル上陸ゝて　ゝゝゝりコモトール
の宅ゝゝゝゝて　ゝゝゝゆのゝゝゝんゝゆハギヤ　ゝゝの言
物語ゝと建ゝゝ家ゆい　ゝ陸ゆて宝ゆ兵番ゝと
ゝゝゝ屋ゝゝゝゆい　ゝ種ゝの者

兵隊〳〵ゝ兵ゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝ人ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝ
ゆ村損ゆ強ゝ中の別ゆウハタと云船ゝ
ゝ別ゝゝゝゝゝ入湯ゆゝ陸ゝ西軍艦威厳丸
ゝゝ海ゆゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ毎ゆゝ高ゝゝゝゝゝゝゝゝ
船の湾ゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝ
港ゝゝ里ゆ　ゝゝの言　山の樹木ゝ茂ゝゝゝ
ゝゝゝ船ゝゝゝゝゝゝゝゝ
兵隊ゆり

月十日　百ゝゝ
一ゝゝ年の上別ゆ兵番ゝ船ゆキチブと云　毎ゆゝゝ

サンフランシスコ港にいたる　航路の眺望の景色なりける
丘の岸にも何れも路を連ね車の往来も軒を並べ陸よりも当府海面
十余ケ所にも長さ三千有余の桟橋を出して船揚
場となし　それも海底深くして大船も之に
横付にて荷物をあげおろし自由にあつかひ其
船は是の旅人の便として海岸より往来の
馬車東西南北に往来して此の車の外又
美麗なる車にて　此車ハ　ギヤマニキン仕掛にて金銀のかざり
ありて自由車の如くかけ走る　ギヤマニの二階造
作り四人乗り位にして至極早足にて走る事を得る
小船もそれぞれあれども海岸より此鉄道ありて
宿屋のある所へ到着して車に乗るもさまざま也

あまたの車ありて繋し　大の旅亭に至りて宿りぬ
家は五階造りにて織物のごとく美麗なる　ミヨキスこイニテル（町名。家）
子シヨ子ルメイルベルレイと云。それより楼上に至りて見るに（名。亭主ノ名）
座敷まで何れも毛氈を敷き　窓には大なる鏡（火焼所）ツプリ
或は種々の額などを掛け飾りたる事なり　室の
目を驚かすばかり　間数は凡そ四百余ありて
ますます是を見るに何れも見事にて家の角の如く見えし
宿泊の客ある時はそれぞれの客へ
下りあらかじめ二の部屋の上に飛ぶ者
到着は直ぐに文言を以て電信を送り
一切を案内して来るなり　又その案内は計らずも更にして
名をコーペルダラートと云。此家内広大にして手を取り

こゝにも此様なるもの少なからず 彼地にて縁少なき
よし 何事も楼上の所にて見物に参り婦人衣食居る
是等をも悦びて能く婦人の女職の家事をも
難儀なる人に為して衣服を給へる所ハ中程
ともかくもし 役人を集めて下の処を見せ行
この処に食事所にて 成程広く間にてあり
楼十八間斗かしこまりても 中程二十処ほど其間に
高き間 中にも此処ハ来りて饗応すると食事すると
我等(?)の所ハ亜国料理を食せしに実に口に叶ふ
あのこをものを出すに 白き大皿に盛るの
沖にて中にハコップ(?)の指なる器に盛りて出し
さしたり 又大皿ハパン杯に盛りて出し 又雞の

丸煮を出し 又鉢に大皿に飯を出せり是ハ南亜墨
利加の米と云 殊に白しと云 其味ハ日本の国の米に劣
れりといへとも 牛肉の塩漬にしたるを菜の物に出し
白き豆の煮たるを出し 又カステーラに砂糖を附
のよふなるものを添へて大皿に盛て出す物あり
牛雞を湯にて煮たるを出し 又豆の如き物の加減なるに
似たる黒き菜のやうなるコウヒと云を出し是を
味ハふに至て苦し 砂糖を入れて吞
事あり 是を飯に交 又パンを出して 仕舞に菓子を
出したるを食ふに コップに水を入て出せり
又硝子の器に 楊梅砂糖漬の如きを出し食したり
細料理のやうなるを出し 此地にては大概かくのごとし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人名

テレニチヤアールの指揮のもとに大砲を発射し如斯
悪魔を滅亡のコモトール陸上を歩行して此間に
来る所の空飛を通過して煙幕を張りて
上陸を敢行し遂に西部戦線の流血
血の海と化し遂に西部戦線の流血
ひ全滅して此の間を利用して敵の
こに於て敵人の殺戮を逃れ
をとて全滅せり

月十二日 曇

一 ヒトラーは内閣の如く第国の指導者を
出発するを知らず
家族の為に

帰郷する市中に於ける人の
大喜びする実際人間の
この如きいろいろ
第種の為
の為
の為
婦人
風俗
えて年齢
門
十年の

帰りてひとのいはく秋ホルウエトより来り候長崎とより
此地の知人知るところ者の言さこと人命を問又
紀州の人の弾薬兵器の別備を
言事ありて其人に命じ船長ウケと云海軍
船に乗て海岸の中別に所々に砲台を設ける
人陽の逢中の知のてち人より利害を問
ることあるとなり時に此子ビヤールト
其清の学ぶて何もてみることを欲ひ
あるとこ長崎中家を学ひ蘭を定
れより金を求て是をもて蘭を定
りて此蘭を知ることを欲をしふ水夫タロスを
時の知る者あるとひて是をもて
〻

和蘭

船長

水夫

一

月十二日　晴

同知藩留船中学ぶ者の中別に海軍を要
国の知識を学ぶことを求ふ屋敷を
ことの由の芸長崎の例にて播磨を
中英ふ高の比を能ふ英佛 要蘭
をとることを各国の法人 是を人知ることを
追て到ることを口して英長ことを所々の通ひ所口
ふことを代ことして英国の テーロル 高長を知ることを
教ふて一ふを乳ことを
中学 是て教授ことを
大海長ことを 法人 ふひ教ことを 是をもての通
中ふことの南西の海路の上知ることを何も

人名

[illegible]

月十四日陰晴 寒

一 年の初にてコビヤールトと云ふ池に出て[illegible]
[illegible]の度数の[illegible]
[illegible]の野[illegible]
[illegible]
[illegible]

月十五日 晴 卯一刻 発足 ヒル

一 同新屋敷ヨリ毎中ヨリ日出人五十軍行向
ヘルヨ北ヒ 同毎ヨリ行ルヨリ渡ヒ ふいてうて 橋毎たく
よりて行きも十言ヨリくまて 日ヒ高ヨリ人
ヒ野ヒ 休ヒ 毎ヒ 通ヒれと 迎ヒ 来ヒ 行ヒ 家
当ヒ 武ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ホウハタヒ 渡ヒ 毎ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
河原ヨリ毎ヒ日の光の岸ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
行きも あ坂の ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒて ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
一 人ヒ事の別 ホウハタヒ、ゴモトール 華盛頓ワシントン 都

ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ
ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ

如此帰国するに如何なる時も是を事とせざる
引ものなり是人に対し只清潔人事
なり隣家の如きは毎日毎時毎事也
く遠慮なく是を作るべし是まつ家
俗にあるを可恥慎んで遠ざけ類僕と
いうるものをもって家を治めて
なり

一 ヒヤの代是人を為人をおくべ
たひ事

日本七月廿三日 己

一 日新出る伊勢やの乃留中発行とする病毒
ようなかこつらこしスコにあ物る出家船をして場国を中

日本代此方法は帰船新年あるのを以て
相過ぎの船人毎に事例あるとして サンフランシスコ
芸者を乗せ来る如くこれ実の婦人なるべ
不為にて元由国の芸者なれ ぬ毒事より
陸例のあるにあらずして
あ様もつて出でて形ちと是を事
又実那人の芸者なり昔あるも
なるべきを毎日毎日
あ船をなふ俗あ切とて
信あ出の只毎とのを見の小人金なる
も為に人行而り仕を協ると雇船して二千年の
乃ちて本ウハクこれ事を
船賃と二トルと云

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

同廿一日　晴　西の風　酉

四年ぶ　　二百四十里

小　二十八度二十六分　　寒暖　六十四度

西　百十四度　辛酉分　　寒暖　六十四度

同廿二日　晴　小西風　戌

一　辰の刻ばかりの時分の所にて見る見雑の船

正午過　　二百十里

北　二十四度六分

西　百十八度二十四分　　寒暖　六十五度

同廿三日　晴　西小風　亥

一　船い辰の方より向て来る

午時まで　二百十五里

小　二十二度　四十分ばかり　　寒暖　七十六度

西　百十四度　辛酉分

同廿四日　晴　東風　子

四年過　　二百二十三里

小　二十度　四十分ばかり　　寒暖　七十四度

西　百十一度　辛酉分

同廿五日　晴　東風　丑

一　午時　宮の上別所の方より山伏山の西の方に船い辰の

方より向て来る　船と船　山と山　たがいに

来の別所　西と東　の方に大船のあつまるを

見て　垂れんをおろすと云ふ所にて言葉ばかり

ことばの如くにおろすなり　皆の如くにおろすなり

[illegible]の風の船の形の[illegible]
[illegible]別船中に[illegible]
[illegible]西名づべと云[illegible]
大洋の[illegible]日のトウクロウと云の形の[illegible]
船中より[illegible]の[illegible]
[illegible]

西年迄　二百十五里
北十九度七分　東経八十二度
西　百九度十九分　二千[illegible]
月北の晴西の風宜
[illegible]べ云[illegible]
[illegible]

午の時より二百十三里

北十七度三十分　十二時
西百五度五十一分十九秒　東経八十九度
月北七日　晴東の風卯
一船の形[illegible]の上に[illegible]
[illegible]
[illegible]除[illegible]船中に[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]船中[illegible]
[illegible]

西年迄　二百四里
北十二度十三分十秒　東経八十七度
西　百二度二十八分

同廿八日晴東風辰

一朝まだき金沢を出て[illegible]と云る

年の[illegible]て二百三十里

小十四度四十七分　立春八十七度

西九十五度四十分

同廿九日晴東風巳

一金沢より[illegible]海辺を[illegible]馬の

首[illegible]を[illegible]と云る[illegible]

大[illegible]別[illegible]東山[illegible]

[illegible]輪[illegible]朝[illegible]

[illegible]年　眠[illegible]

二月朔日　二百十六里

小十三度十四分四十七秒　寅[illegible]八十分度

西九十三度三十六分三十秒

同二日晴東風　年

一[illegible]時ふ[illegible]陽[illegible]

[illegible]ふ[illegible]　夕別[illegible]

[illegible]

正午過　二百十四里

小十三度四十分四十七秒　[illegible]八十四度

西九十二度十四分

同三日朝晴東風　東

一海面ふ[illegible]

[illegible]

半の号大雨中に船を止
午時より　二百四里
北十一度半分
西　八十九度七分半ほど　寅時　八十一度
同二日　晴東風中
一夕別より九ツ半時分より天墨と成
小雨降稲妻ひらめく
正午迄　一百八十里
小雨降二十三分ほど　辰時八十度
西　八十三度二十分ほど　巳時
同三日　晴東風南
一、船を西方に向て走る事

西國地方の山と云るを目メキミコ順に走りて
行くに見えるの山と云るの事別に西國の
海船を行るに人家を分て山の方より船を
小出すに人所所船上に見て接船　第利器
軍艦ホウハタレ等自分の狀名の狀名と云事にて名
高き人家も多の所　と云ふ事にて
三度船を行遣る
正午迄　二百四十里　寅時　八十四度
小七度半分
西　八十二度半ほど
同四日　晴東風成
一船を西の方に走る所に西と云る

[illegible]

年の時にて二百四
小七度三分
西八十度二十分　寒暖　八十六度
同五日　中陸地あり
一　印の刻　パナマ湾より三里半沖に出で和蘭船遠
方にて和蘭船出帆し　[illegible]
百余の小船にて二度[illegible]
しかく又小船に乗り移り[illegible]
[illegible]

湾名

[illegible]
和蘭の軍船[illegible]
[illegible]
[illegible]

明治五年より八十五年迄ニて一里半程
和八度五十七合
西七十九度三十五
同六日　晴　風　子
一印の中別河岸ニ蒸気船ハ二艘ハ外国船ハ二艘
ありてもこれ程ニ多く外国船の軍艦ハ
ありてもこれ程ニ多くてパナマ滝ハ
見ることなし　此海上ニ三十余の格幅ニ
ありて海ハ日出ル人迄の中橋車
行ク度の中別ありてこれの中橋車ハ高サ
車ニて高ク一丈ニ成キ八尺幅二尺余ニて
ハ橋ニて行て中央ニて二尺ニ成ル
八人ニて乗り是ニて八人余ニ成ル
毎ニ橋車の後ニ人車ハ八人車ニて是
ハ橋車の後ニ人車ハ八人車ニて是
を牽ク者ハ百ドルと云又ハ車の名ハ
カワーイスと云　パナマより　アスペルと云ハ
地名
ジョルハ千人ニ　ゲベルと云ハ
人ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
中ハ　ハ　ハ　ハ　ハ

歐羅巴ノ有国
イスパニヤ

地名
アスベコワルヒ

の野戦砲を以て撃ちたりしかども敵の艦隊
いまだ防ぎ守りしかども幅舟にて来て用ひ
たる朝人の逆船口（船ノ口号）ノークスに到りたる三里余にて
此船日本人と称する
人なるべし船ボウハタとよりたりて
キさ三百メートル
フウト（一フウトハ日本の一丈）幅八尋にして二隻共に艘を備へ
上陸ハイニチー是二千ポンド砲中隊ハ九イニチー
是八千ポンド砲中隊ハ十イニチー二挺船の高浮ものて
仕ー一イニチーハ我国の八分三毛ものある上陸
ハ艘数を合して三千人三千人中隊を合して
三千三挺ありて二千八百挺中隊を合して
百五十人年 地名 コスボルトトものて上陸を製造をして云

人数ハ五百五拾人高四百人逆の為
ものて戦ふ人数を減じて三百人数を合して
ハ防ぎて居りて人夫家屋を焼ハ
居家を焼き呂船の二隻目の高砲ハ帆柱を倒
幕をなしこの中ハ毛綿名ハうこケットを敷
風の強きなり野陣をなして寒き
時節なり夜を昼に暗ハタとなりて
ひ地の熱国なり洋ものを張て船を
とをもてふたのを備事の強きよりて
是きとをもてパナマよりアスベこワルまてイレキテル
と通ー一筋ー是こんを通をうつて
七里の所とも煙を一つ

あるゝ イレキテルハ針ヲ[illegible]て作ルヲ[illegible]
[illegible]ハ通ヲ[illegible]
の別ヲ[illegible]

同七日 晴東風

一 巳の刻アスベコワル滝ヲ帆ヲ[illegible]
年の別ヲコロニビスの中ポルトベルト[illegible]
ニビスヲ[illegible]
[illegible]
ニビスヲ云ポルトベルハ山の[illegible]
[illegible]
中ヲ[illegible]
人カ[illegible]

自中[illegible]ポコプヲ海路の草ヲ作[illegible]
[illegible]
の傳ヒ一セヒトヲ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
泉の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 已の刻ボールトベルに上陸せり山のいろ紅葉なり
[illegible]
[illegible]の泉の言葉の水みな[illegible]
[illegible]の海のなかにもいくつも
[illegible]
[illegible]海岸の[illegible]
[illegible]海中より見人見えて
[illegible]通りぬけ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

地名

今こゝ毒水の流るゝ所ありて日出人ゆかずあしんるをとゝまりて[illegible]
岩石の[illegible]
鍋の形のごとくなる[illegible]
[illegible]
[illegible]

海峡にて[illegible]と称する要塞と[illegible]ゴアナと云
この間[illegible]
[illegible]里[illegible]人[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]
の價一ドルとす又船中にて小[illegible]集りて[illegible]
の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西平道　百三十七里　元禄　八十二度
小　十四度　四十四分
西　八十度　十分
月十二日　晴　東風　年
一　船中にて見る潮路を食事路号出ハタと於[illegible]
午時にて　百八十三里
小　十六度　二十四分
西　八十二度　三十四分　寛政　八十二度
月十三日　晴　小東風
一　船中にて見る潮路にて船中にて路程計

[illegible]

白く黄色なる物を見る　嶋中地名
平にして西名ドルベと云
又呉氏東の別路より[illegible]
こんぐるを見イスパニヤ領にして人口百三十万
と云海の岸　西の八百里行
ありけるに別ケーブサンエトトークと云[illegible]
高き岸路を海に臨む　嶋ノ名
年の時にて　百七十三里
小　二十一度　十七分　元禄　八十度
西　八十四度　二十九分
月十四日　晴　東風　中

一 ちょうもんのキユバア井ラこと
煙とちゃうもイスバニヤ煙
ちゃうと思ひ種ふもと第利器ひて男女
共ともに男ばかりともあるのに
りつくばかりの国ひてもイスバニヤひて
はなぐらいなり

三千七百　百五十里
小　二十二度　五十七分
西　八十三度　四十四分　ここ陸　七十六度

同十四日陸地　商

一 船ハ出発ちゃうもの到ふいてもの
ひとちゃうもの第利ひて

地名
プロルデーこと知ちゃう同し

うちゃうもの到ふ船を
を隔ちゃう二里人家ハ中の別ちゃうもの山を
ちゃうもの別ちゃう国の第船ひ通船を会を
ちゃうもの接船ちゃうもの第ちゃうもの和船
ちゃうもキユバア井ラこと知ハ船ちゃうもの船ちゃうローノーク
船号船を投地ひ第ちゃうもの家を書
のちゃうもの第ひて日和
の表ちゃうもの別ちゃうて船ちゃうもの
神感ちゃうもの船ちゃうもの同別船中ひ
船ちゃうもの別ちゃうもの和船ちゃうもの
ハ第人種ちゃうもの道ちゃうもの
上ちゃうもの出ちゃうもの

[illegible]海中より船を水[illegible]船中に沙[illegible]をもつて[illegible]
夕刻より帆を[illegible]
[illegible]
又[illegible]海より[illegible]里半を隔キユバアサウシヤあ
[illegible]

正午過　百[illegible]七十里
北　二十四度　三十七分　　三度　七十九度
西　八十度　四十八分

同十六日　晴　北東風

一今朝より船[illegible]
[illegible]

百[illegible]　百八十二里
北　二十七度　二十四分
西　七十九度　四十分　　三度　七十九度

同十七日　晴　西南風

一昨夜[illegible]より風西南[illegible]帆を[illegible]
車を[illegible]海中より車を[illegible]
[illegible]
[illegible]水中より[illegible]や常[illegible]
[illegible]八人[illegible]
[illegible]
[illegible]

午の時[illegible]二百二十三里

小　三十一度四分
西　七十六度四分

元禄　八年　癸

同十九日晴西風　西

一当湊より南の方と相の国の内とビヤールトと云て海を隔てしがうくと云よりつゝき南の方に数多して西にて海に入て小間風の強く吹て諸船難渋する

四十近　　四十六里

小　三十一度三十分
西　七十六度四分

元禄　八年　癸

同十九日晴小風　西

一当湊より南の方と相の国の内とビヤールトと云て海を隔てしがうくと云よりつゝき南の方に数多して西にて海に入て小間風の強く吹て諸船難渋する

四十近　　四十六里

小　三十一度三十分
西　七十六度四分

元禄　八年　癸

西七十四度　三十八合

月井の　半時事凡　寅

一　北方ニ当リテ野スクーラビル船ノ泊ル所ヲ嶋名ハ子ーゲットアサウ常燈ヲ云ト云フ井トハウ
ハ子ーゲットアサウトハ常燈ヲ云ト云フ井トハウ
ハ子ーゲットアサウトハ常燈ヲ云ト云フ井トハウ
見ル所ニ高キ常燈ヲ点ズルト云フ井トハウ
スルトコロニ上ル半里ヲ隔テ高ク聳ヘタル
数艘の船ヲ繋ギタル事ハ別ニ記ス事ハ
ヲ艘の内ニ繋ル士官ヲ乗ス事ハ
ヲ艘の内ニ繋ル士官ヲ乗ス事ハ ローノーク ニ寄泊

[illegible]ヶ井うこをとる

四年道　百八十三里

小三十の長九十分

西七十四長十分

[illegible]

同九十四里

一[illegible]もカニデホック沖の[illegible]

引[illegible]人[illegible]行[illegible]

已の別[illegible]コモドール[illegible]子ウヨルク

[illegible]テしがラフとんワミトニ[illegible]引[illegible]

行[illegible]日[illegible]逆[illegible]中通[illegible]

[illegible]ん[illegible]行[illegible]の別

子ウヨルク[illegible]行[illegible]

イクに来る[illegible]日[illegible]

[illegible]

[illegible]子ウヨルクより[illegible]道

[illegible]一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

水 三十七度 二十七分
西 七十四度 四十一分

同廿四日 晴 東風強く海浪高く船号動揺の上船体向へ又
一今朝ハ引続き出帆を延ばす船員の中無不帰船者多
出帆の事ハ上陸も時々許可し居れども一国
方人の往ひ来ハ門海中ハ閉鎖
静かなり已の別段事無り日本人の運び
出し荷物の事ハ船号フェルドルフェヤーと云ふ
船にて出帆とフェルドルフェヤーと云ふ
蒸汽ドラ船を使ひ四年の別れの行為事
無り船の中 四時半にて上陸ハ省

当地にて二隻目ハ入口より船を種々と変而ハ
其の後ハ又許多の類を曲芸師の船ハ
何れも蒸汽船なり右ハ日本人の為に皆新規
の仕方にて又ハ南方新規
と報合して四十五トモノ言ハ
一と云ふの内ハ薩州ハ
みなミヨシのうちハ又トモの方ハ食事所にて
四十五ハ所ハ座敷ハ中程ハ
法廷ハ別に設ケ薩州ハ
ハ別毛氏と云ふ
ことのと申ハ
別に来の別れ

牛乳

地名

壹堺ノ名

表紙共
60

[illegible]書ハ門内行[illegible]食料ヲ送ル後[illegible]
戦死[illegible]ル時ハ書モ日本ハ[illegible]弧[illegible]ル云又高キ遠[illegible]
樽ヲ[illegible]ル事終ハ[illegible]ヒ[illegible]海上ニ二十年
ノ[illegible]樽ヲ[illegible]ル家[illegible]ヒ如和蘭場ヨリ
樽ヲ[illegible]ハソルジヨル四十人[illegible]ゲベルヲ持テ法[illegible]
モ比如[illegible]ル陸[illegible]ル[illegible]ノ前ヲ[illegible]人金ヲ隔テ[illegible]
家用ノ[illegible]ル比如[illegible]人家ヲ[illegible]絶二年挺ヲ
[illegible]又[illegible]ヲ申ノ中別ヲ[illegible]ルパイセン
ボウーヲ和[illegible]ノ[illegible]ヒ[illegible]士官ヲ[illegible]婦人
ソルジヨルヲ[illegible]ヲ冠[illegible]ヲ拵キ[illegible]ヲ
[illegible]ヲ別ヒ[illegible]ヲ送ル蘭ノ別ヨリ和蘭ノ[illegible]
[illegible]年　六月二度